

ホタル観察会を実施しました

～第1回千波湖環境学習会～

「ホタルを観察しよう」をテーマに、今年度1回目の千波湖環境学習会を6月3日に開催しました。

前日の大雨の影響もありましたが、当日は午後から天気も回復し、予想以上に大勢のご家族にご参加いただきました。

集合時間から暗くなるまでの間に、講師からホタルの生態などについて説明があり、参加者は興味深く耳を傾けていました。説明の後、ゲンジボタルとヘイケボタルの違いや、オスメスの見分け方、どんなところに生息し



ていて、何を食べて生きているのか。ホタルを守るために必要なことは何なのかといった、ホタルについてより学び考えることができるクイズを行いました。クイズに正解しようと元気よく手を挙げた子どもたちに会場は大盛り上がり。正解した子どもには、景品をプレゼントいたしました。

クイズも終わった頃、日も落ちて薄暗くなった会場で、ちらほらとホタルが飛び始めました。「ホタルに触らない、連れて帰らない、懐中電灯などでホタルを照らさない」など、観察会にあたっての注意事項を事務局から話し、3グループに分かれて観察会を開始しました。

森の中で、まばらにゆっくりと点滅を繰り返すホタルを見つけた途端、大人も子どももその方向を指差して周りに伝えあっていました。みんながホタルを目に焼き付けて帰れるように、見えるポイントを譲りながらゆっくりと回り、滅多に見られないホタルを楽しみました。

観察会の終わりには、参加いただいたご家族全員にヤクルト、子どもたちにはヤクルトとお菓子を配り、無事に観察会を終えることができました。



あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：一般社団法人水戸市公園協会様

飲み物：水戸ヤクルト販売株式会社様

お菓子：東部燃焼株式会社様

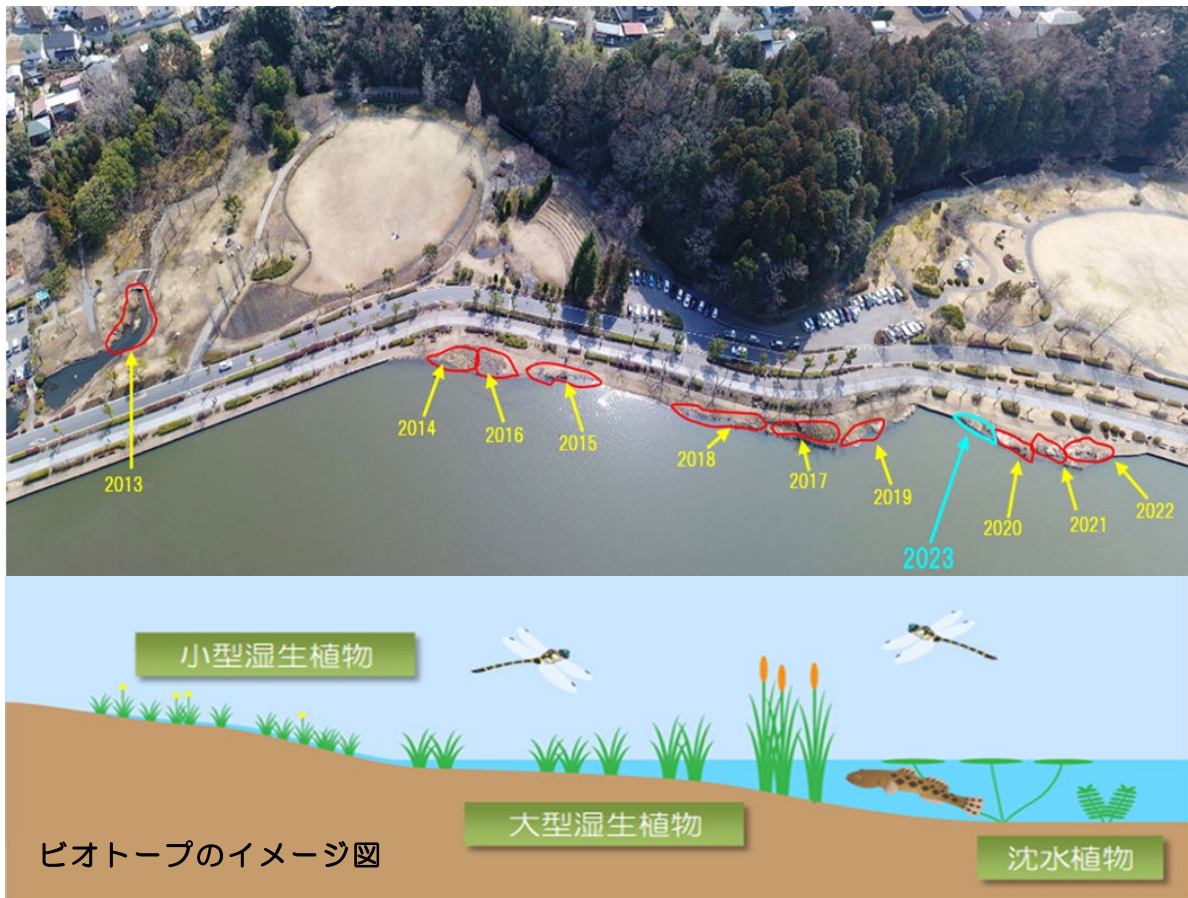
ビオトープをつくろう

～第2回千波湖環境学習会～

千波湖環境学習会では千波湖の水質浄化を目指していくため、水戸市関係各課を交えて協議を行い、2012年度からビオトープの造成を行っています。

ビオトープは、特に窒素分を植物が吸収する水質浄化効果、水生生物が多く定着生息できる生物多様性の効果が期待できます。毎年6月に親子約200人が学習会に参加していただき植栽しています。これまで造成された千波湖南岸のビオトープは周囲3kmの湖岸のうち、約300m区間で昔の千波湖を象徴する湿地帯に再生しています。

以下に、毎年のビオトープ学習会を通じて造成してきた箇所を示します。



2. 本年度の概要

千波湖南岸のさくら広場横駐車場前1カ所とし、面積：幅30m×前面3m

●ビオトープ湿地の造成 5月20日～24日

湖面に接していない陸地を除草⇒掘り込み⇒植栽の手順でビオトープ化した。



●植え込む植物の採取 5月26日～28日

植物の提供は毎年逆川こどもエコクラブの子供たちが担ってくれています。クラブが保全している千波湖周辺のホタル再生地より、本来、ホタルを守るために抜き取られ処理される予定であるガマ100本、ショウブ720本、ホタルイ200本、セキショウ2,000本の約3,000本を採取し、現地に運搬。



●学習会当日 6月4日

当日は多くの親子連れに参加いただき、ビオトープ造成を行うことができました。



あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：千波湖水質浄化推進協会

飲み物：逆川エコクラブ様 有限会社沼田クリーンサービス様

文 具：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック様

お菓子：東部燃焼株式会社様

「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行いました ～第3回千波湖環境学習会～

6月4日、水戸市環境フェア2023関連事業として、前日のホテル観察会に続き、第2回千波湖学習会「ビオトープづくり」の後に「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行い、親子171名の参加がありました。

オオキンケイギク除去は、オオキンケイギクが生えている川岸まで移動しての抜き取り体験でした。現地で茨城生物の会の先生からオオキンケイギクが環境省の特定外来生物に指定されていること、除去するためには根ごと抜き取ること、抜いたものは種などが飛び散らないように袋に入れることなどの説明を受け、川岸で保護者の方たちにご協力いただき、大きなゴミ袋3袋分を集めることができました。



足元に注意しながらのオオキンケイギク除去

ムシムシ探検に参加した子どもたちは、昆虫採



虫採りに夢中な子供たち

取のときの注意事項の説明を受けた後、思い思いに楽しみながら昆虫採取をして、採れたムシたちの名前の説明などを茨城生物の会の佐々木先生や当協会の職員が行いました。目当てのムシが採れた子どもたちや採れなかった子どもたちも、それぞれ夢中になって思いっきり走り回っての昆虫採取となりました。

芝生広場や池周囲のヨシ群落などでシオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ベニシジミ、キタキチョウ、モンキチョウ、ショウリョウバッタなどいろいろ

な虫たちを追いかけて捕まえて、子どもたちは楽しんでいました。オオキンケイギク除去とムシムシ探検は当協会と茨城生物の会様との共催で毎年行われています。協力いただいた方々にお礼申し上げます。



多く見られたキタキチョウとシオカラトンボ

あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：千波湖水質浄化推進協会様、茨城生物の会様

飲み物：有限会社リビング館ホンダ様 株式会社ジーエスケー茨城様

花の苗：茨城生物の会様

お菓子：東部燃焼株式会社様

外来種を調べました ～第4回千波湖環境学習会～

6月4日、水戸市環境フェア2023 関連事業として午前中に行われた「ビオトープづくり」からの「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」を行い、引き続き、第3回千波湖環境学習会として「外来種を調べよう」を開催しました。この日は外来種を釣り上げることを目標としたためか、子どもたちだけでなくお父さんもやる気満々で挑んでくれました。

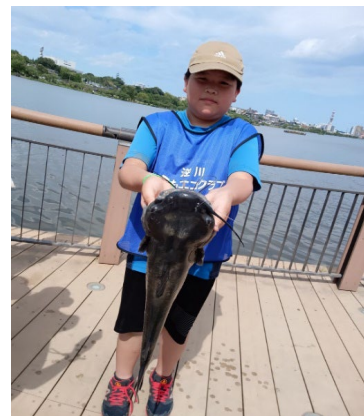
まず、外来種捕獲の前に、千波湖に生息している外来種や外来種により在来種の生息が脅かされていることなどを簡単に説明しました。子どもたちは、早くわなを引き上げて、何が捕獲されているか気になって仕方がない様子、早速、わなの回収に取り掛かりました。

前日にたくさんのカゴ罟と、2本のはえ縄を仕掛けていました。魚食性の外来種を捕獲するため、練餌のほかに、イカの切り身や小魚、ドッグフードも餌にしています。

期待のはえ縄のほうには、なんと大きなチャネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）とミシシippアカミミガメがかかっていました。アメリカナマズもミシシippアカミミガメも外来種です。参加者もターゲットを捕まえたを知るや大盛り上がり。また、今回はカゴ罟を回収している際、「どんな餌を使用しているのか」「カゴ罟がどんな構造になっているのか」など興味を持ってきている子どもたちが多く、何が捕まえられたかだけでなく、どのような下準備をすることで捕まえることができるのかを考えてくれている様子が伺えました。

今年度の成果は、60cmものアメリカナマズの大型が3本もかかりました。これにはスタッフも驚きを隠せませんでした。このような学習会をきっかけに、自然や環境に視野を広げて欲しいと思います。

今回、有限会社リビング館ホンダ様、逆川エコクラブ様、株式会社ジーエスケーいばらき様、有限会社沼田クリーンサービス様より飲み物を、水戸ホーリーホック様からホーリーノートを、株式会社いばらき環境改善様から文具を、東部燃焼株式会社様からお菓子をご提供いただきました。ありがとうございました。また運営に協力いただいた方々にお礼申し上げます。



あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：逆川こどもエコクラブ様

飲み物：株式会社 Purecycle いばらき

提 供：花王株式会社 除菌シート

お菓子：東部燃焼株式会社様

千波湖周辺の昆虫を調べました

～第5回千波湖環境学習会～

「千波湖周辺の昆虫を調べよう」をテーマに、8月5日に、今年度5回目の千波湖環境学習会を開催しました。

親水デッキでの開会式の後、ふれあい広場を経由して少年の森へ向かうコースでした。

ふれあい広場と周辺の流れて子供たちは歓声を上げながらチョウやトンボを追いかけていました。

次に少年の森に移動し、カブトムシやクワガタなど甲虫の仲間を狙いましたが、ほとんどが地面の落ちている残骸だけでした。朝のうちにカラスたちがカブトムシやクワガタを食べに集まることなどを先生から説明を受け、競争の厳しさを学びました。

またセミの抜け殻集めでは、たくさんの羽化殻を集めて、名前の調べ方を勉強しました。

千波湖周辺に生息しているアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミの5種類全部の抜け殻を集めた子もいました。

色々な公園でセミの抜け殻を集めると、公園の環境によって性の種類の比率が違ふこと、それをテーマに夏休みの宿題にできることなどの説明がありました。

今日の観察会では、5種類のセミの他にはシオカラトンボ、ウスバキトンボ、オニヤンマ、アオスジアゲハ、コクワガタ等 18 種類の昆虫を見ることができました。

暑い中子供たちは汗びっしょりになりながら、虫を追いかけていました。



ふれあい広場や周辺の流れて
トンボを追いかけてました



少年の森でカブトムシの仲間や
セミの抜け殻集めに挑戦しました

提供品のご協力をいただきました、ありがとうございます。

消毒スプレー：花王鹿島工場様 お菓子：東部燃焼（株）様

新しい市民会館で第6回千波湖環境学習会を行いました

～水戸市環境フェア 2023～

8月19日（土）に、2023年7月に開館した水戸市民会館にて開催された「水戸市環境フェア 2023」内で、第6回千波湖環境学習会を行ってきました。

3階大会議室で午前中から、大勢が来場してたくさんのイベントが行われてきましたが、午後の時間で千波湖環境学習会を行い、参加してくれた約50名の子供達と2010年から始まった千波湖環境学習会の歴史の説明や水戸市内周辺の昆虫・生物についてクイズ形式で楽しい時間が過ごせました。その中で、アライグマの毛皮も披露したので、参加者が驚いていました。



環境学習会の会場の様子



江守正多先生、逆川こどもエコクラブ小島代表
劇団シンデレラの皆様

クイズは15問出題され、大人でもなかなか難しいものも多かったですが、答えのわかった子供が挙手して、プレゼンターの劇団シンデレラの皆様が回答者を指名しました。正解した子供には協賛企業様から提供していただいたプレゼントを渡すと、みんな大喜びでした。他に、参加してくれた子供達全員に、当協会より、カブトムシクラフトとLEDボールペンを渡しました。

問題の一例として、水戸の千波湖が国の重要湿地に指定されているのはどうしてでしょうか？と

の問題で、ホトケドジョウの写真を出して答えてもらい、初めてホトケドジョウを知った保護者が関心していましたが、子供達の正解率が高いのには驚きました。また、出題者や劇団シンデレラの皆様がユーモアも交えて和やかな雰囲気で行えたのが印象的でした。

普段とは違う室内での開催でどれだけの参加者が来るのが心配でしたが大盛況となりました。参加された皆様に感謝いたします。

また、このような機会に、千波湖環境学習会に協賛していただいたたくさんの企業様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



参加の少友幼稚園の園児達とスタッフ

提供品等をご協力いただきました企業の皆様、ありがとうございます。

いばらきコープ生活協同組合、茨城生物の会、劇団シンデレラ、逆川こどもエコクラブ、株式会社ジーエスケー茨城、東部燃焼株式会社、有限会社沼田クリーンサービス、パンビ靴工房、株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック、有限会社リビング館ホンダ（一社）茨城県環境管理協会、茨城県地球温暖化防止活動推進センター

千波湖に入って「魚」たちを調べました

～第7回千波湖環境学習会～

第7回千波湖環境学習会を8月20日に開催しました。開催時は、最高気温 33.3℃（気象庁 HP より）でとても暑く、新型コロナウイルスで外出自粛が続いていた子どもたちも今年は5類に移行し外出規制も解け、また、夏休み中ということもあり、多くの家族に参加していただき、親子合わせて約 78 名の参加がありました。

※ 千波湖の西側（放流橋から西側）は、通常、生物類の採取や魚釣りが禁止されていますが、特別な許可により、本学習会では実際に千波湖に入って生物を採取することができます。



魚類等を採取する子どもたち



漁獲用の罟を引き揚げる様子

水生生物の採取・観察では、親水デッキ付近に設置した漁獲用の罟に掛かった水生生物を観察したり、子どもたちが実際に千波湖の浅瀬に入り、手網を使って生き物を採取したりしました。

始まりは当協会の講師から子どもたちに、学習会の進め方、水生生物（魚類、エビ等の甲殻類など）の採取の仕方、注意事項等の説明があり、生物の採取に当たっては、講師やボランティアの大人達が子どもたちを常に見守りつつ、生物の取り方を教えたり手伝ったりしていました。

昨年に引き続き親水デッキ付近に設置した罟を回収して捕獲された生物の観察をしました。漁獲用の罟の引き揚げを体験した子どもたちもいました。そのあと、多くの子供達が千波湖に入って魚類を採取しました。

今年も千波湖の水は、植物プランクトン（アオコ）が多く発生したため、緑色をしていて水の底が見えなくなっていて、大人は入るのをためらいがちですが、子どもたちは、網と採取容器を手を持って、元気よく浅瀬に入っていました。膝くらいまで水に浸かり、熱心に魚を探していました。

学習会が始まり、細かい説明が終わったところで、クイズ形式で子どもたちに質問をし、魚の外来種についての学習を行いました。千波湖に入って観察をした後、子どもた

ちが採ってきた魚について、数種類をピックアップして水槽に入れ、採れた魚の種類や生態等について講師から説明を聞き、皆で観察しました。



魚に関するクイズ



採取されたオオクチバスと
ミシシippアカミミガメ

子供たちは、多くの小魚やエビを採ることができました。今回は、ミシシippアカミミガメも捕獲されました。今年も、在来種を捕食する特定外来生物のブラックバスが採取されたものの、在来生物のモツゴ、ヨシノボリ等の魚類、テナガエビ等の甲殻類は例年通り捕れ、普段は大きなコイしか見ることができませんが、外来生物に負けず在来生物が生息できていることが再確認できました。

千波湖で採取された生物（令和元年度～令和5年度）

No	種類		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	魚類	在来種	モツゴ	モツゴ	モツゴ	モツゴ	モツゴ
2			タモロコ	タモロコ	タモロコ	タモロコ	タモロコ
3			ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ
4			ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ
5			ナマズ		ウキゴリ		
6		外来種	カムルチー	コイ	ブルーギル	アメリカナマズ	オオクチバス
7			コイ		コイ	オオクチバス	ブルーギル
8						コイ	コイ
9	甲殻類	在来種	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ
10			スジエビ	スジエビ	スジエビ	スジエビ	スジエビ

※コイの外来生物については諸説あり。

あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。	
飲み物：いばらく乳業株式会社様、中央技術株式会社様 お菓子：東部燃焼株式会社様	

逆川の生き物を調べました

～第8回千波湖環境学習会～

9月3日、第8回千波湖環境学習会を逆川緑地前の逆川の小門橋付近で開催しました。

当日は快晴で、絶好の学習会日和になり、子供116名、大人74名と沢山の方にご参加いただきました。

当協会の講師から挨拶、注意事項等の説明の後、ライフジャケットと採捕網、飼育ケースを配付し、逆川に入って魚や水生生物の採取が始まりました。

参加者は、元気にバシャバシャと土手から水辺に入り、採捕網を駆使して、モツゴ、ヨシノボリ等の小魚や、スジエビ、ヌマエビ等の甲殻類を沢山採取していました。

笑顔溢れ、夢中になって逆川の生物を楽しそうに採取する参加者の姿がとても印象的でした。

採取終了後、参加者が採取した生き物を水槽に集め、捕れた生物の観察を行いました。在来種であるオイカワ・アユ・ヌマチチブなどの魚類や、スジエビ・テナガエビ・モクズガニ等の甲殻類など、子供達は自分で採取した生物の種類や生態等について講師の説明を熱心に聞いていました。

暑い中でしたが、自然豊かな逆川の水中生物を知ることが出来た楽しい観察会となりました。

最後にジュースを提供していただきました、いばらく乳業株式会社様、東部燃焼株式会社様にお礼申し上げます。

<逆川で確認できた水中生物>

在来種	外来種
ドジョウ、モツゴ、タモロコ、ヌマエビ、スジエビ、モクズガニ、アユ、ガムシ、オイカワ、ヨシノボリ、モノアラガイ、ヌマチチブ、ミナミメダカ、ヒメゲンゴロウ、カダヨシ、ヒメゲンゴロウ など	ブルーギル、アメリカザリガニ、ウシガエル（オタマジャクシ含む） など



開会のあいさつ



逆川の水中生物採取



水中生物の説明・観察

あいさつ及び提供品等にご協力いただき、ありがとうございました。

飲み物：いばらく乳業株式会社様

お菓子：東部燃焼 株式会社様

桜川の生き物を調べました

～第9回千波湖環境学習会～

11月18日、第9回千波湖環境学習会を開催しました。温暖化の影響なのかここ数年那珂川を經由して桜川に遡上してくるサケが激減し、サケの卵を調べるのが難しくなってきたため、今回からこの時期のテーマは毎年恒例となっていた「桜川でサケの卵を調べよう」から「桜川の生き物を調べよう」に変わりました。

当日は天気に恵まれ青空が広がり、気温も例年よりは高めで、気持ちの良い日差しの中参加者35名とともに学習会を行うことができました。

はじめに、桜川へ出発する前に「桜川でサケの卵を調べよう」で毎年恒例となっているもので、今回は、桜川に遡上していたサケについてクイズを出題しました。サケに関わる簡単な問題からサケの生態についての難しい問題まで様々な問題を出題しましたが、子どもたちは元気良く、一所懸命に答えてくれました。クイズの正解者には、水戸ホーリーホックからいただいたホーリーくんのレジャーシートなど、嬉しそうに受け取っていました。

次に、市役所から桜川的美都里橋まで歩いて移動して行きました。

桜川の中に入る前に、講師から桜川に入る際の注意事項や生き物採集の方法について説明を受けました。

川の水はこの時期にしてはあまり冷たくなく、子どもたちは、びしょびしょになりながら元気に水生生物の採取を行っていました。今回は、ハゼの仲間であるヨシノボリとヌマチチブや、モクズガニ、スジエビ、テナガエビ等様々な水生生物を採集できました。

子どもたちは、採取できた水生生物についての説明を興味深そうに聞いていました。



出発前のクイズ大会



生き物採取に夢中な子どもたち

提供品等ご協力をいただきました、ありがとうございます。

レジャーシート：水戸ホーリーホック様
シャープペンシル：クリーニング専科（株式会社ユーゴー）様
お菓子：東部燃焼株式会社様

千波湖の渡り鳥を調べました

～第10回千波湖環境学習会～

第10回目の千波湖環境学習会は、1月21日に「千波湖の渡り鳥を調べよう」をテーマに開催しました。当日は朝から雨模様で、観察は難しいと思われましたが、受付開始の12時30分からは雨も弱まり、16名の参加者は、親水デッキに設営したテントの中から野鳥を観察することができました。

今回の学習会では、講師を日本野鳥の会会員の飛田憲一先生、角谷清臣先生にお願いしました。最初に、講師から注意事項として、太陽を見てはいけないことや人を見ないこと、さらに使用方法について、ピントの合わせ方や眼鏡を着用した状態での観察方法の説明があり、参加者は各々で双眼鏡を使いこなせるよう実践していました。それまでの雨の影響で、カモ類の姿は少なかったものの、オナガガモやヒドリガモなどが親水デッキの周りに集まっており、間近で観察できました。それ以外にも、カンムリカイツブリやオオバン、



双眼鏡の使い方を学ぶ様子

浮島周辺に集まるカワウやユリカモメなど様々な種類の野鳥を確認できました。

講師からは、それぞれの特徴やカモ類は尾羽の形状で水にもぐって採餌する種と水面で植物などを主に採餌する種が分かること、ハクチョウはくちばしの黄色の部分の違いからオオハクチョウとコハクチョウ、コブハクチョウを区別することができること、カルガモが夏の間も池に残って見られ続けることから「夏留鴨」と呼ばれるようになった説など、分かりやすい説明をしていただきました。参加者は、千波湖遊歩道周辺で、双眼鏡で野鳥を探すのに苦労しながらも、ハクセキレイやカワラバトを観察し、興味深く講師の説明を聞いていました。

また、遊歩道沿いに植栽された桜の木にはヤドリギが生えており、ヤドリギを好む冬鳥、レンジャクについての説明もしていただきました。

観察終了後、確認することのできた鳥の種類のまとめを行いました。今回は雨の中での観察会でしたが、11種の鳥を見ることができました。

最後に、参加者から講師へお礼の挨拶をして、参加者にアルコール消毒液やお菓子を配り、学習会を終了しました。



親水デッキからの野鳥観察

今回、提供品等ご協力をいただきました、ありがとうございます。

講師：飛田憲一先生、角谷清臣先生

消毒スプレー：花王株式会社鹿島工場様、お菓子：東部燃焼株式会社様

千波湖周辺の地層とジオサイトについて学びました

～第 11 回千波湖環境学習会～

当協会では、水戸市との協働事業として、体験しながら環境問題について考える「千波湖環境学習会」を開催しています。2023 年度の最終回となる第 11 回は、「千波湖周辺の地層とジオサイト」をテーマに 2 月 4 日（日）に開催しました。当日は、天候にも恵まれ、55 名の参加がありました。

まず、早咲きの梅の咲く偕楽園を歩き、園内の地層などを観察しながら、水戸の台地や千波湖の成り立ち、地質と人々の生活の関わりについて学びました。

参加者は親水デッキで、偕楽園を創った第 9 代水戸藩主徳川斉昭公の創建への思いに耳を傾けた後、偕楽園へ向けて出発しました。



偕楽園創建の思いに
耳を傾けました



南崖の洞窟
地質を活用した先人の知恵に感動

最初のポイントの「南崖の洞窟」では、水戸の土台となっている約 700 万年前に海底に堆積した泥の地層の岩石を手にとって観察しました。水を通しにくい、軽いなどの性質のため江戸時代には「笠原水道」の水道管の材料として利用され、水問題が解決したことを学び、さらに、偕楽園斜面に位置する「吐玉泉」では、泥岩の地層が不透水層となり水が湧き出すしくみなどの説明がありました。

最後のポイントの千波湖を一望できる「仙奕台」では、氷期・間氷期の海水準変動と関連した千波湖の成り立ちについて学びました。

参加者は各ポイントで出されるクイズに答えながら、熱心に解説に耳を傾けていました。

2023 年度の学習会は、延べ 1,392 名の参加があり、千波湖周辺の環境について、体験を通じて楽しく学習していただくことができました。学習会運営のため、講師としてご協力、飲み物等の提供やスタッフとしてご協力を頂きました事業所等の皆様には心より感謝申し上げます。



千波湖の成り立ちについて
学びました

今回、提供品等ご協力をいただきました、ありがとうございます。

消毒スプレー：花王株式会社鹿島工場様

お菓子：東部燃焼株式会社様

2023年度千波湖学習会の協賛事業所（敬称略）ご協力いただきありがとうございました。

- | | | | |
|-------------------------|-------------------|----------------|--------------------|
| ・(有)アルファサービス | ・(株)いばらき環境改善 | ・茨城生物の会 | ・いばらく乳業(株) |
| ・いばらきコープ生活協同組合 | ・(株)エコソー技術研究所 | ・econet いばらき | |
| ・花王(株)鹿島工場 | ・環境ウィザード(株) | ・劇団シンデレラ | ・(株)ジーエスケー茨城 |
| ・逆川こどもエコクラブ（司会及び講師：小島様） | | ・大東建託(株) | ・中央技術(株) |
| ・東部燃焼(株) | ・(有)沼田クリーンサービス | ・パンビ工房 | ・(株)PureCycle いばらき |
| ・(株)フットボールクラブ 水戸ホーリーホック | | ・一般財団法人水戸市公園協会 | |
| ・水戸ヤクルト販売(株) | ・学校法人緑丘学園水戸英宏小中学校 | | |
| ・(株)ユーゴー（クリーニング専科） | ・(有)リビング館ホンダ | ・飛田憲一先生 | ・角谷清臣先生 |